

インナー大会プレゼン部門 2017 専用企画シート

※電話番号や住所などの個人情報は記載しないでください。

大学名 (フリガナ)	学部名 (フリガナ)	所属ゼミナール名 (フリガナ)
フリガナ) ニホンダイガク	フリガナ) ショウガクブ	フリガナ) タカイトオル
日本大学	商学部	高井透ゼミナール

※大会申込書時に記入したチーム名から変更することはできません。

※パワーポイント内に動画を使用している場合は「有・無」を記入してください。

チーム名 (フリガナ)	代表者名 (フリガナ)	チーム人数 (代表者含む)	PPT 動画 (有・無)
フリガナ) タカイ	フリガナ) モリクボ ミナミ	4	無
高井ゼミナール B	森久保 南美		

※プレゼンツールを使用する場合は記入してください。記入がないプレゼンツールは大会当日使用できません。

使用するプレゼンツール (具体的に使用するツールを明記してください)

研究テーマ (発表タイトル)

ラグレター ～ あなたの「想い」を残します ～

※必ず<企画シート作成上の注意>を確認してから、ご記入をお願いいたします。

1. 研究概要 (目的・狙いなど)

近年の日本では女性の労働者の増加により、共働き世帯が増えている。これらにより幼い子供がいる家庭では、家族で過ごす時間が減っていると考えられる。後に成長した子供からすると、アルバムでは当時の思い出を写真で振り返ることができるものの、親の気持ちを知ることが難しい。そこで手紙を書くことを推奨し、書く側・受け取る側共に手紙の良さを再認識してもらうことを目的とする。親が自身の子供に宛てて手紙を書くことにより、手紙を貰った子供は自分の幼少期の親の気持ちを知ることができ、親自身も当時の気持ちを思い出として残しておくことができる。また、手紙と写真を一緒にアルバム化することで、新しい成長記録の形として提案する。

2. 研究テーマの現状分析 (歴史的背景、マーケット環境など)

研究するにあたって実施したアンケート結果からスマートフォンの普及により、日常生活で手紙を書く機会が減ってきているものの、手紙の文化を大切にすべきと思っている人は多く、さらに年賀状などにおいても、印刷されたものより手書きが加えられたものの方

が良いと人々は感じていることが分かる。また、親が子供の成長記録などを残す媒体は写真や動画が多い。それだけでは子どもが親の当時の気持ちを知ることは難しい状況にあることが分かる。自身の成長記録で残っておいてほしいことについて 10 代～20 代の男女にアンケートしたところ、当時の親の気持ちの割合が高くなっている。これらのことから、手書きをすることに対するニーズと当時の思いを残しておいてほしいというニーズを満たすために、成長記録を残す際に手紙という媒体は有効であることが分かる。

現状のマーケット環境については、子供の成長記録を残す媒体としてフォトアルバムが挙げられる。しかし写真だけを残す物や、写真と共に少量のメモを残すだけの物などのフォトアルバムを作成する企業しか存在していないことが分かった。

3. 研究テーマの課題

研究テーマにおける課題は大きく分けて 2 つある。

1 つ目は、どのような機会であれば手紙を書いてもらうことに繋がるのかを解決していくことである。手紙を書く機会が減少していく中、手紙だからこそその「想い」をずっと手元に取っておくことができることから、どのような時にこのビジネスモデルが活かされるのかを考える必要がある。

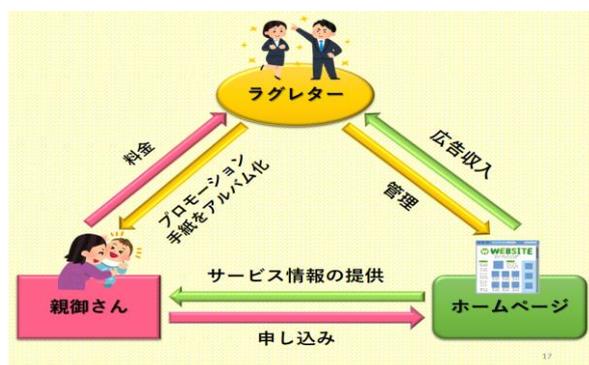
2 つ目は、1 つ目の課題を育児の点で解決したものの手紙をどのようにアルバムと共に管理できるようにするべきか、ということが課題として挙げられた。親御さんの中には、自身が書いた手紙を誰かに見られる危険性があることに消極的な考えを持っている方もいらっしゃる、手紙とアルバムをいかに 1 つの媒体に収めていくのが課題となった。

4. 課題解決策（新たなビジネスモデル・理論など）

手紙を書く機会が減っているのは、スマートフォンの普及によるメールや SNS の利用が増えていることが関連しているのではないかと考えた。アンケート結果から、手紙の文化をこれからも大切にしたいと感じている人は年齢問わず多いことが分かったが、今後更なるネット社会・スマートフォンの普及で手紙を書く機会はますます減ってしまう可能性がある。そこで、手紙文化を残していくために、実際に手紙を書き、手紙の良さを再認識してもらう機会を提供する。

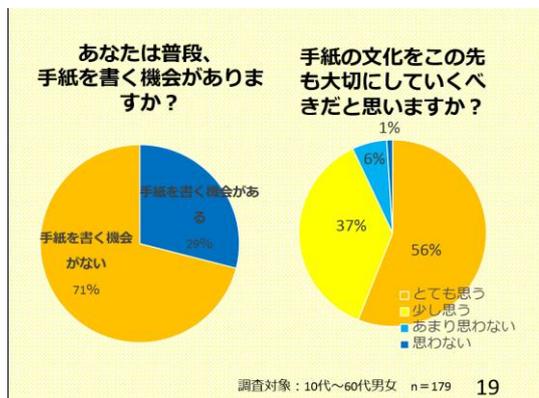
また、研究テーマの課題にも記した通り、子供の成長記録を残す一般的な媒体として写真が挙げられるが、それだけでは親がどのような想いや気持ちだったのかを残すことはできない。そこで私たちは、その想いや気持ちを「手紙」の形として残すことに着目し、手紙と写真を一緒にアルバム化するという新しい成長記録の形として提案する。手紙という媒体を使うことで、単なる成長記録としてだけでなく、未来の子供へのサプライズとして、プレゼントすることができる。

今回の提案内容の流れは、以下の図の通りである。



5. 研究・活動内容（アンケート調査、商品開発など）

上記のビジネスにおいて送り手となる親御さんに対しては、手紙の文化に関して、子育てに関する項目を、ビジネスにおいて受け取り手となる10代から20代の若年層に対して手紙の文化に関する項目についてアンケートを行った。また、親御さんには、ビジネスモデルを紹介した後、どのように感じたかのインタビューを実施した。



6. 結果や今後の取り組み

アンケート調査やインタビューの結果、今回提案したプランに対するニーズがあることが分かった。

今後は、実際にホームページ作成・アルバム作成を行い、顧客ニーズに合わせた対応を強化していく。また、プロモーション活動を通じて、認知度を高めていけるよう働きかける。そして、このプランを通じて手紙や手書きの良さを再度実感してもらい、これからの時代も手紙文化を残していくことを目指す。

7. 参考文献

- ・文化庁「平成26年度 国語に関する世論調査」[2017年5月22日閲覧]
(http://www.bunka.go.jp/tokei_hakusho_shuppan/tokeichosa/kokugo_yoronchosa/pdf/h26_chosa_kekka.pdf)
- ・厚生労働省「働く女性の状況」[2017年10月1日閲覧]
(<http://www.mhlw.go.jp/bunya/koyoukintou/josei-jitsujou/16.html>)
- ・厚生労働省「専業主婦世帯と共働き世帯の推移」
(<file:///C:/Users/User/AppData/Local/Microsoft/Windows/INetCache/IE/9ESDBAGA/0000118655.pdf>) [2017年10月1日閲覧]
- ・世田谷区「世田谷区内全域の人口と世帯数」
(<http://www.city.setagaya.lg.jp/kurashi/107/157/692/694/1888/d00121945.html>)
- ・日本郵便 HP [2017年5月22日閲覧] (<http://www.post.japanpost.jp/notification/index.html>)
- ・ともえ HP「親子のコミュニケーション」[2017年6月19日閲覧] (<http://tomoe.life/5154>)
- ・みらいねっと HP [2017年6月23日閲覧] (<http://npo-mirainet.com/>)
- ・おもいでカプセル便 HP [2017年6月23日閲覧] (<http://omoide.ccu.jp/main/omoide.html>)
- ・オリヴァー・ガスマン、カロリン・フランケンバーガー、ミハエラ・チック（2016）『ビジネスモデル・ナビゲーター』、株式会社 翔泳社
- ・ラリー・キーリー、ライアン・ピッケル、ブライアン・クイン、ヘレン・ウォルターズ（2014）『ビジネスモデル・イノベーション ブレークスルーを起こすフレームワーク10』、日新聞出版
- ・FUERU PHOTO BOOK [2017年9月25日閲覧] (<http://www.fueru.jp/photo/>)
- ・SHIMAUMA PRINT [2017年9月25日閲覧] (<https://www.n-pri.jp/>)
- ・カメラのキタムラ [2017年9月25日閲覧] (<http://www.kitamura.jp/>)

- ・TOLOT [2017年9月25日閲覧] (<https://tolot.com/jp/photobook/>)
- ・COCOAL [2017年9月25日閲覧] (<http://cocoal.jp/price/>)
- ・MY BOOK [2017年9月25日閲覧] (<https://www.mybook.co.jp/>)

<企画シート作成上の注意>

※本企画シートは審査の対象となり、予選会・本選の前に、実行委員会から審査員(ビジネスパーソン・大学教員)の方々に事前にお渡しいたします。

※本企画シートは、「日本語」で書かれたものとし、1チーム・1点提出してください。また、インナー大会・東京経済大学大会終了後、プレゼン部門にご協力いただいている日経BPマーケティング社様に作製していただく大会結果HPに本企画シートは掲載されます。

※本企画シートの項目に沿って、ご記入をお願いいたします。各項目に文字数制限はありませんが、1~7以外の項目を追加することは「不可」とさせていただきます。

※本企画シートは、インナー大会プレゼン部門実行委員会への連絡事項と企画シート作成上の注意を含め、4ページ以内に収めてください。実行委員会から審査員に渡す際は、A4サイズでプリントし、4ページ目までをお渡しします。

※大会参加申込み時点から、チーム編成の変更(チームの人数・交代など)は、「不可」とさせていただきます。ただし、チームメンバーの留学等やむを得ない事情でチーム編成に変更が生じる場合は、実行委員会(プレゼン局)にご連絡ください。実行委員会側で協議のうえ、ご返答いたします。なお、参加申込書提出時からのチーム名変更は「不可」とさせていただきます。

※企画内容は、未発表の(過去に他誌・HPなどに発表されていない)ものに限り、ただし、学校内での発表作品は未発表扱いとなります。

※商品写真、人物写真、音楽などを掲載・利用する場合、必ず著作権、版権の使用許諾を得てください。日本学生経済ゼミナール関東部会・日経BP社・日経BPマーケティング社は一切の責任を負いません。

※書籍や新聞等の文献から引用した場合は、出典先(使用した文献のタイトル・著者名・発行所名・発行年月など)を明記してください。統計・図表・文書等を引用した場合も同様に明記してください。また、Webサイト上の資料を利用した場合は、URLとアクセスした日付を明記してください。

※電話番号や住所などの個人情報は記載しないでください。

※パワーポイント内で動画を使用する場合は、必ず「有」とご記入ください。動画を使用する際の注意事項は参加要項に記載しております。

※プレゼンツールを使用する場合は、必ず企画シートにご記入ください。企画シートにてご記入が無い場合、発表当日のご使用を「不可」とさせていただきます。あらかじめご了承ください。

↑ ここまでを4ページ以内におさめて、提出してください